

現代ギリシア語における月に関する諺

浮田 三郎

日本とギリシアは、ほぼ同じような緯度に位置しており、春夏秋冬の四季があるが、大分趣は異なる。

ギリシアの春は、やはり3月からであろうか。北と南では異なるが、それでも野や山には既に2月から草花が咲き始める。とは言え、まだまだ寒いのは、日本とよく似ている。夏の趣は、日本のそれと大きな違いがある。ギリシアの夏も、6月からであるが、実際には5月からだと言っていていいであろう。気温は既に30度ぐらいになり、雨があまり降らない。したがって、ギリシア語で夏を“良い天気”という。梅雨も無ければ、台風も来ない。暑いが湿度が低いので、日陰に入るとそんなに暑さを感じないのも、日本との大きな差である。

秋は、9月から10月からであろうか。残暑は厳しい。と言うか、なお夏の続きだと言えそうである。山の紅葉は11月の末以降である。したがって、冬は、12月から年を跨いで2月までと言うことになるだろうか。時期的にも日本と良く似ている。アテネでも雪は降り、年によっては、白銀のアクロポリスを見ることができる。もちろん、山間部や北部ではかなり積もり、スキーもできる。オリンポスの嶺は、3月の終わりまで、真っ白なことが多い。今年(2006年)は、真っ白であった。

単純に、Μαρία Μιχαήλ Δέδε(1984) に挙げてある諺から、それぞれの月に関連した諺の数を表にして、諺の数を比べてみると、ギリシア人の活動と関心の持ち方が何となく想像できる。

即ち、春3月に、諺が一番多く見られ、人々の活動が始まるのが読みとれ、4月5月もこれに続いている。8月にも多く、8月は、なお夏であるが、米などの穀物やブドウなどの果実の収穫も既に始まっている。雨などの天候も含めて生活の中での関心事や気になることが諺に現れている。冬の12月と1月にも多くの諺が見られる。これらの月は、祝祭の月とも呼ばれ、聖人の誕生日など祝祭が行われ、それらに関連した諺が面白い比喩表現を形成している。

季節に関連した諺は、これまでもいくつか紹介しているが、時間の制約もあり、今回は、1月2月3月に関連した諺について、論じてみることにした。